「平和への想い」　～　広島平和記念式典に参列して　～

私は今回の広島派遣事業を通して、学校だけでは学べない、たくさんのことを肌で感じました。1945年8月6日午前8時15分、広島の約14万人の命が一瞬にして奪われました。中学生は空襲によって火災が広がるのを防ぐため、建物を取り壊す、建物疎開作業をし、人々は普段と変わらない日常を送っていました。爆心地から約1.2km以内にいた人は熱線によって即死し、爆心地から約3.5kmまで被害が及びました。皮膚は焼け爛れ、同じ人間とは思えないような体をしていました。

広島平和記念資料館では、そんな原爆の悲惨さを表した様々な資料がありました。私の心は恐怖心で埋め尽くされ、胸が締め付けられました。原爆によってどれだけの被害が出て、どれだけ人々が辛い思いをし、それがどれだけ悲惨な出来事だったかが、一目見ただけですぐに解ったからです。

今回のこの広島派遣で、私は平和について、もう一度考え直すことができました。広島では、原爆の恐ろしさや平和の尊さを全国、全世界に発信していくために、様々な取り組みをしています。今回私たちが訪れた安田女子高等学校の被爆桜もその一つです。生きる喜びや希望を与え、平和についてもう一度考え直してもらうために、生徒会の提案で、被爆桜の苗木を全国に送る活動をしたと聞きました。ひとつの学校の生徒が、世界平和を守るために計画をし、それを実行に移す、これは簡単なことでなく、どんな方法でも、原爆の恐ろしさや平和について伝えていくということはとても大切だと思います。

たった一つで広島を壊滅させた核兵器は、世界で12000発以上もあります。今、核兵器を廃絶する取り組みについて世界各国で話し合いがされていて、核兵器の数は少しずつ減っています。それでも、一瞬にして約14万人もの命を奪う核兵器は、まだ世界に多く存在します。いつ核兵器が発射されてもおかしくありません。歴史とは「世界の成長」です。原爆が落とされた、この悲惨な歴史を「世界の成長」へと繋げていかなければなりません。唯一の被爆国である日本、そこで生きている私たちが、原爆の恐ろしさを伝えてく必要があります。

私は今回貴重な経験をさせていただきました。平和とは何か、今の世界は平和とは言えるのか、今私たちにできることは何か、そんなことを考えるきっかけになりました。平和を願う気持ち、誰しもその心はあるはずです。紛争や戦争が絶えない今、世界平和をすぐに達成するのは難しいことかもしれません。小さなことでも、私たちの身近に平和を築いていくことが、世界平和への第一歩となると考えます。広島に原爆が落とされた、この歴史を忘れることなく、今私たちにできることを考えていきたいです。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　磐田第一中学校代表　３年森田　唯斗